



じかっ



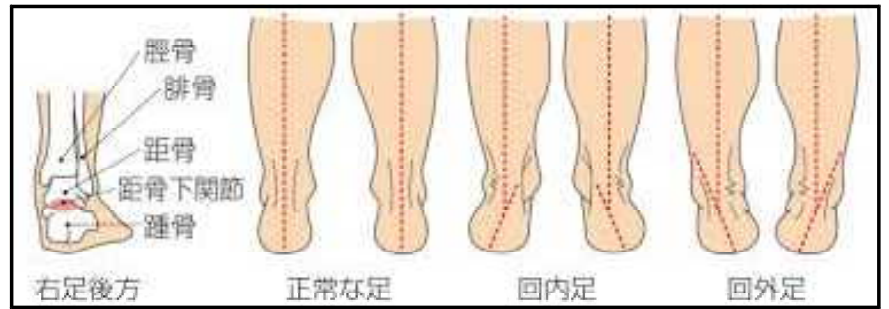
自立活動だより NO. 11

令和3年7月8日（木）文責：佐方



回内・回外 → 足底板

膝など脚の不調を訴える子どもは、ひょっとすると足の着き方に特徴があるかもしれません。



足のアーチ構造にゆがみが生じて土踏まずがなくなった**扁平足**はよく耳目にします。

整形外科健診でも、菊野病院の地原医師に指摘された児童生徒も数人いたように記憶します。

扁平足に限らず、足底の地面への着き方に課題のある児童生徒が少なくありません。中でも回内足の子どもが多いように感じます。



中学部の生徒にも、しばしば膝の痛みを訴える生徒がいました。本校の健診で整形外科での診察を勧められ、今では一つの足底板を、その都度使う靴に入れ替えながら、学習活動に参加しているケースもあります。

反帳膝

低緊張の子どもの中には、右図のような反帳膝の症状が見られるケースもあります。

私自身はその子の膝の状態には注意が向いていなかったのですが、自立活動の抽出指導をしている子どもの中にも、地原医師に「反帳膝の傾向あり」の所見の事例がありました。

学校生活を送る上で、歩き方をはじめ、体の使い方、体の各部位について、担任の先生方にも気に掛けていただきたい視点だと思い紹介しました。



【抽出指導の一コマ】



揺れるフレクサースイグから
バイキンマンにボールを投げるKさん



ポジションナーで
伏臥位のNさん



スクーターボードで
快走するKさん



プロンボードで
立位のYさん